第 56 回 全附連高等学校部会教育研究大会報告

研究部　阿部　真由美

2014 年度の全附連高等学校部会研究大会は、「地歴・公民」、「英語」、「生活指導」、「附属のあり方」の 4 分科会が設けられ、10 月 17 日（金）、18 日（土）の両日、下記の日程で、大阪教育大学附属高等学校池田校舎において開催され、本校からは 8 名の教員が参加した。

＜日　程＞

第 1 日　＜ 10 月 17 日（金）＞

9:00　9:30　10:00　12:30　13:30　16:30　17:00

受付	全体会	分科会 1	昼食	分科会 2	準備会

第 2 日　＜ 10 月 18 日（土）＞

9:00　10:30　10:45　12:15　12:45

分科会 3	休憩	講演会	高校部会総会

※　講演会の内容は次のとおりである。
　　テーマ：　「モンゴル草原における人と動物の暮らしかた」
　　講演者：　小長谷　有紀　氏（人間文化研究機構理事）

本校からは下記の 2 名が報告を行った。概要については、それぞれ該当ページを参照されたい。

□「地歴・公民分科会」
　　SGH における地歴・公民科の役割
　　玉谷　直子

□「生活指導分科会」
　　学校行事におけるメーリングリスト活用の問題点
　　土方　伸子

学校行事におけるメーリングリスト活用の問題点

指導部　土　方　伸　子

１．発表要旨

①　メーリングリストを通じて上級生から送信されていた行事関連メールの内容紹介

②　①のメールがきっかけで実施されたアンケート「インターネットにつながるスマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末の利用について」の結果報告

③　本校生徒が考えているメーリングリスト活用のメリットとデメリット

２．質疑応答

Q1　結局、メーリングリストやLINEを学校行事で活用した方が良いのか良くないのか、どういう結論に達したのか？

A1　活用のメリット、デメリットがあるので、どちらが良いとは今の段階では言えない。個人的には、生徒間の連絡は対面式で行った方が良いと考えているが、本校には校則がほとんどなく、自己判断に任せているので、禁止したところで馴染みにくいだろう。好ましい使用方法について、生徒たち自身に考えさせたい。

Q2　教師がメーリングリスト乱用の実態を把握した後、すぐに対応したのか？

A2　すぐにはしていない。附連研がやってきたので、アンケート調査を行った次第。

Q3　行事が盛んな学校というが、メーリングリストやLINEを活用することで、上級生が力強く行事の指導をするようになったのか？

A3　そういうわけではない。もともと上級生が力強く行事を指導する風潮があった。

Q4　活用して良かった点の中に、「集合しなくてすむ」という記述があるが、生徒は集合したいのか、したくないのか？

A4　時と場合によるのではないか？早く結論を出したい時には大人数で集合したくないだろうし、集合はしたいが時間がない場合もあるだろう。

Q5　スマホ・携帯に関する学内の様子を教えてほしい。T附属では、年度当初に申請した生徒だけが学校に持ってくることが許され、学校にいる間はロッカーに入れることになっている。学内で使用しているのを見つけたら取り上げる。

A5　授業中、わからないことがあると生徒はすぐに調べる。以前は電子辞書であったものが、今はスマホがツールになっているという感じ。数学の時間に電卓として使用する場合もあるし、スマホやipadから外部の保存媒体にアクセスし、授業に必要な資料・情報を閲覧しながら授業に臨む場合もあると聞いている。

Q6　アンケートの質問項目はどのようにして作成したのか？

A6　参考･引用先から引用したものに、本校独自の質問項目を盛り込んで作成した。

ＳＧＨにおける地歴・公民科の役割
～教養教育を基盤とした探究活動の構築に向けて～

地歴・公民科（日本史）　玉　谷　直　子

1. はじめに

2014 年度に文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）事業が始まった。国立大学附属高等学校は、幹事校の筑波大学附属高等学校をはじめとする４校がＳＧＨに、６校がＳＧＨアソシエイトに指定されており、全国の国立大学附属高等学校がＳＧＨに大きな関心を寄せていることがわかる。そのため、全附連において本校での取り組みを紹介することには大きな意義があると考え、表題の発表を行った。

２．発表概要

はじめに本校のカリキュラムや地歴・公民科の構成、ＳＧＨに応募することにした経緯や構想調書作成の過程を紹介した。そのうえで、本校の従来の教養教育を重視したカリキュラムを変更せず、総合的な学習の時間を活用して、生徒の自発的な探究活動を促すために、全校生徒を対象として、第１学年次に学校設定科目「グローバル地理」（必修、２単位）、第２学年次に総合的な学習の時間「持続可能な社会の探究Ⅰ」（必修、１単位）、第３学年次に総合的な学習の時間「持続可能な社会の探究Ⅱ」（必修、１単位）を設置し、世界の諸課題の基礎を学び、各自の課題意識に応じたフィールドワークを含む探究的学習を実施させるほか、より関心・意欲・能力の高い生徒を対象として、第２学年次に総合的な学習の時間「グローバル総合」（選択必修、１単位）、第３学年次に総合的な学習の時間「グローバル総合アドバンス」（選択、１単位）を開講し、海外研修を含む課題研究を実施させる本校のＳＧＨカリキュラムの概要を紹介した。さらに、2014 年度に実施した「グローバル総合」の「国際協力とジェンダー」（16 名）、「経済発展と環境」（8 名）、「国際関係と課題解決」（10 名）の３講座における生徒の学習活動、海外研修の様子、教員の関わり方等を紹介した。

この課題研究を重視したカリキュラムにおいて、地歴・公民科の教員が担っている役割について伝え、課題研究に他教科の教諭の協力を得ていくこと、大学や外部機関との連携を強化していくことが今後の課題であると考えていることを伝えて、発表を締めくくった。

３．質疑応答

発表後には、活発な意見交換が行われた。意見交換を通して、ＳＧＨの中核は語学力の強化ではなく課題研究であり、地歴・公民科の教員が大きな役割を果たしていく必要があるという認識が共有された。一方で、学校全体で取り組むための工夫について、各校の取り組みが具体的に紹介され、非常に有意義な時間となった。